

# 新撰體操書

水野浩編纂  
隊列運動之部  
二

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番	第	號
門		
部		
教 材	體 操	項
目		次
全	2	冊ノ内第 1 冊
分類 番	第	372.78 號

校學範師司福

書 冊 本 圖

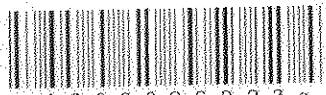
冊 全

冊 37

冊

冊ノ内

圖書 和圖書 遡



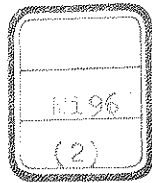
a 1 3 8 0 3 2 6 9 2 3 a

福岡教育大学蔵書

T 1A1

49

M1 96



水野浩編纂

隊列運動之部

# 新撰體操書

文學社

新撰體操書

隊列運動之部

凡例

一本書編輯ノ目的ハ小學校生徒ヲシテ規律ニ  
服従スルノ慣習ヲ與ヘ隨テ品格氣質ヲ高尚  
ナラシムルニアリ故ニ之ヲ教練スルニ當テ  
ハ精神活潑號令峻嚴ナラザルベカラズ  
一隊列運動法ハ體操ノ諸術ヲ演習スル前ニ敎  
練スルモノトス蓋身體ノ姿勢整ハザル片ハ  
體操術ヲ完全ニ行フコト能ハザレバナリ  
一號令ニ豫令ト動令ノ二種アリ其豫令ト動令

ノ間ハ成ル可ク長クシテ相連續セザルヲ要  
ス而シテ豫令ハ高聲ニ唱ヘ動令ハ短ニシテ  
嚴明ナルベシ  
一 豫令ハ平假名ヲ附シ動令ハ片假名ヲ附シ以  
テ之ヲ區別ス  
一 運動ヲ施行スルニ當リ教師ハ勉メテ之ガ摸  
範ヲ示シ生徒ヲシテ之ニ摸倣セシムベシ  
一 運動ヲ敎練スルニハ成ルベク分解シテ爲  
サシメ而シテ漸次進ンデ一運動ノ全體ヲ完  
成スベシ

一 運動中ハ必ズ番號ヲ呼ビ決シテ姓名ヲ呼ブ  
ベカラズ  
一 書中各處ニ圖畫ヲ挿入シテ省者ノ了解ニ便  
ナラシム

但シ虚線ハ都テ舊位置ヲ示スモノナリ

明治十九年五月

編者識

新撰體操書

隊列運動之部

目次

第一章 静止間ノ要領

第一節 會集法

第二節 解散法

第三節 休息法

第四節 整容法

第五節 頭首ヲ左右ニスル法

第六節 番號ヲ附スル法

第七節 臂ヲ屈グル法

第八節 臂ヲ屈ゲ頭首ヲ左(右)ニ向ル法

第九節 摺足法

第十節 臂ヲ屈ゲ頭ヲ回ラシテ摺足ヲ  
ナス法

第十一節 整頓法

第十二節 轉向法

第十三節 左右半轉向法

第十四節 轉回法

第二章 步調ノ要領

第一節 早足法

第二節 停止法

第三節 後ニ退歩ノ法

第四節 駢足法

第五節 足踏法

第六節 踏替法

第三章 行進間ノ要領

第一節 正面行進法

第二節 斜行進法

第三節 二列編成法

第四節 方向變換法

第五節 側面行進法

第六節 各伍方向變換法

目次尾

新撰體操書

隊列運動之部

水野 浩 編纂

隊列運動法

隊列運動法ハ、身體ノ容姿ヲ整ヘ、行進ノ方法ヲ  
敎練シテ、生徒ノ動作ヲ完全ニシ、精神ヲ活潑ナ  
ラシムルヲ以テ目的トス、故ニ、此隊列運動ニ習  
熟セザル片ハ、體操ノ諸術ヲ完全ニ行フコト、能  
ハザルナリ、

第一章 靜止間ノ要領

第一節 會集法

此法ハ、生徒ノ運動場ニ散亂シタル片、之ヲ會集セシガ爲メニ行フモノニシテ、教師左ノ令ヲ下

第一圖



ス、

一 集レ

此令ニテ、生徒ハ直チニ、教師ノ面前四歩ノ處ニ集リ、身長ケノ順次ニ併列スルモノトス、但身ノ長ケ高キ者、乃チ第一番生ハ、教師ニ

對シテ立チ、次第ニ右方ニ併列スルヲ法トス、此法ハ、豫メ其方法及ビ順序ヲ、各生徒ニ告示シ置キ、然ル後之ヲ行フモノトス、但最初ハ一列ニテ施行スベシト雖、凡、二列編成法ヲ教ヘシ後ハ、二列ニテ施行スルモノトス、此集レノ令ハ、教師高聲ニ唱ヘルト同時ニ、右手ヲ握テ頭上ニ舉グベシ、

第二節 解散法

生徒併列セル片、之ヲ解散セシムルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 解<sup>レ</sup>進<sup>メ</sup>

右ノ令ニテ生徒ハ黙禮ヲナシテ各自隨意ニ解散スベシ、

第三節 休息法

生徒ヲ其場ニ休息セシメントスル片ハ教師左ノ令ヲ下ス、

一 休<sup>メ</sup>

此令ニテ生徒ハ自己ノ整容及ビ教師ノ號令ニ意ヲ留メズ左足ヲ前ニ出シ其場ニ休ムベシ、而ノ後隨意ニ左足ヲ引き右足ヲ出スモ妨

ゲナレト雖片一足ハ必ズ元ノ地位ニ置クモノトス、但高聲ニ談笑スル等ノ事ハ嚴シク之ヲ禁ズベシ、

(注意) 凡テ隊列運動ヲ充分ニ施行スル片ハ、

心身トモニ勞疲スルモノナレバ二三節ヲ敎練シ而ノ凡二三分時間ヅ、屢々休息セシムベシ、然ラザレバ生徒疲勞倦怠ノ念ヲ生ジ却テ効ヲ奏スルヲ能ハザルモノナリ、

第四節 整容法

此法ハ前節會集法ニ由リ生徒併列ノ後行フモ



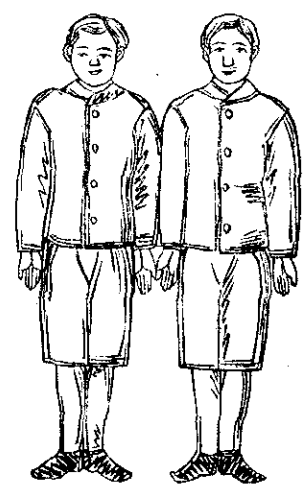
新撰體育書 卷之二  
ノニシテ教師左ノ令ヲ下ス、

一氣ヲ付ケ

此令ニテ生徒ハ各體ヲ真直ニナシ、而シテ兩足ノ踵ヲ相近ヅケ、其尖ヲ開キテ六十度ノ角ヲ作り、體ヲ少シク前ニ傾ケ、胸ヲ張り、膝ヲ伸シ、左右ノ肩ヲ退ケ、一様ニ下シテ高低ナク、頭ハ正直ニ、眼ハ前方十二步許ノ所ヲ視、兩臂ハ側方ニ垂レテ、少シク掌ヲ前ニ向ケ、小指ヲ股ノ側ニ著クベシ、第二圖ノ如シ、

〔注意〕 生徒ノ口ヲ開キ、手足ヲ動カシ、或ハ

第二圖



左右ヲ回顧スル等ノ事ハ嚴シク禁ズベシ、且心中他事ヲ思ハズ、常ニ意氣ヲ快濶ニ保チ、己レノ姿勢ニ最モ意ヲ注ガシムベシ、

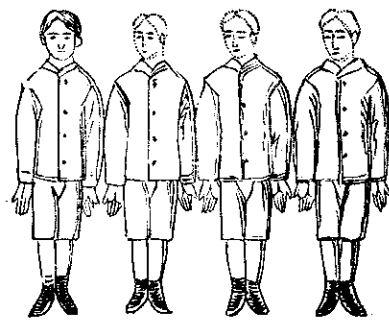
第五節 頭首ヲ左右ニスル法

生徒整容ノ姿勢ヲ取リシ後、頭首ヲ左右ニセシムル運動ヲ教練ス、乃チ教師左ノ令ヲ下ス、

一 頭 （右左） 直レ

頭右或ハ左ノ令ニテ、生徒ハ左右ノ肩ノ位置

第三圖



ヲ亂サズ、靜ニ頭ヲ少シク  
右或ハ左ニ回ラシテ、眼ヲ  
同列生徒ノ視線ニ注グベ  
シ、而メ直レノ令ニテ、靜ニ  
頭ヲ正面ニ復ス、

第六節 番號ヲ附スル法

生徒右ノ運動ニ習練スル片ハ、番號ヲ附スベシ、  
其番號ハ毎ニ生徒ノ右ヨリ、左ニ及ブヲ定則ト  
ス、此法ヲ行フニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一番號

此令ニテ、列ノ右方ニアル第一位ノ生徒、頭ヲ  
少シク左ニ向ケルト同時ニ、(一)ト唱ヘ次位ノ  
生徒ニ告ゲ、直ニ頭ヲ正面ニ復シ、第二位ニア  
ル生徒ハ、直ニ(二)ト唱ヘテ、前法ノ如ク第三位  
ノモノニ次ギ、以下三、四、五ト順次ニ全列ニ及  
ブ、

(注意) 番號ノ唱ヘ方ハ、速ニシテ明カナルヲ

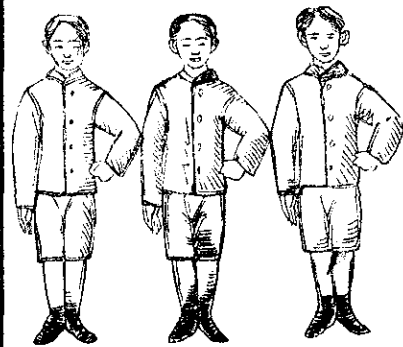
要ス、若シ明カナラザル等ノコトアルトキハ、  
教師故トヘノ令ヲ下シ、更ニ之ヲ唱ヘシム、

第七節 臂ヲ屈グル法

生徒ヲシテ臂ヲ屈グル法ニ、習練セシムル爲メ、  
教師左ノ令ヲ下ス、

第四圖

掌ノ  
握リ  
方ヲ  
示ス



一 臂ヲ屈ゲ 直レ  
臂ヲ屈ゲノ令ニテ、生徒ハ  
左手ノ四指ヲ握リ、拇指ヲ  
中指ノ第二節上ニ置キ、爪  
ヲ上方ニ向ケ、肩ノ位置ヲ  
亂サズ、肘ヲ正シク側方ニ  
張り、中指ノ中節ヲ腰ノ上、  
即チ髌骨上ニ當ツベシ、而

ノ直レノ令ニテ、左手ヲ速ニ故トノ位置ニ下  
シテ、掌ヲ開ク、

(注意) 左手ヲ握ル片ハ、掌中ニ空隙ヲ生ズル  
コトナク、堅ク握リ、又臂ヲ屈ゲテ、拳ヲ腰上ニ  
當ツル片、手頸ヲ屈ゲザル様ニナスベシ、

第八節 臂ヲ屈ゲテ頭首ヲ右左ニ向ル  
法

生徒前二節ノ運動ニ習熟スル片ハ、之ヲ同時ニ  
教練セシムベシ、即チ教師左ノ令ヲ下ス、

一 臂を屈げ

頭

右左

直レ

臂を屈げ、頭右<sup>(左)</sup>ノ令ニテ、生徒ハ前法ノ如ク、臂ヲ屈ゲ、同時ニ頭ヲ右<sup>(左)</sup>ニ向ケ、而メ直レノ令ニテ、速ニ手ヲ下シ、掌ヲ開キ、頭ヲ正面ニ復ス、

第九節 摺足法

前節ノ運動ヲ敎練セシ後チ、摺足ノ運動ヲナサシム、乃チ敎師左ノ令ヲ下ス、

一 摺足<sup>すりあし</sup> 進メ<sup>すす</sup> 直レ<sup>ただ</sup>

進メノ令ニテ、生徒ハ姿勢ヲ亂サズ、腰及ビ膝ニ力ヲ入レ、兩趾ニテ小足ニ且早ク、地上ヲ摺

リテ、正直ニ前ニ進ムベシ、而メ直レノ令ニテ、摺足ヲ止メ、其場ニ立ち止マリ、決シテ動クベカラズ、

(注意) 體ノ上部ヲ前ニ傾ケ、或ハ己レノ足尖ヲ視ザル様ニ、爲サシムベシ、

此運動ハ、始メハ凡ソ五六尺許、前ニ進マシメテ止マラシメ、而メ屢練習スルヲ良トス、

第十節 臂ヲ屈ゲ頭ヲ回ラシテ摺足ヲナス法

前ノ諸運動ニ、稍、習練スル片ハ、之ヲ同時ニ敎練

スベシ、乃チ教師左ノ令ヲ下ス、

一

臂を<sup>ひき</sup>屈<sup>ま</sup>げ

頭<sup>くち</sup>右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>

摺<sup>すり</sup>足<sup>あし</sup>

進<sup>すす</sup>メ

直<sup>ただ</sup>レ

臂ヲ屈ゲ頭右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>摺足進メノ令ニテ、生徒ハ前諸法ノ如ク運動ヲナシ、直レノ令ニテ左手ヲ下ゲ、頭ヲ正面ニ復シ、摺足ヲ止ム、

### 第十一節 整頓法

此法ハ生徒ヲレテ、列ヲ整ヘシムル爲メニ、教練スルモノニシテ、之ヲ二様ニ分ツ、但第一ヲ習練シタル後、第二ニ移ルモノトス、

第一 生徒併列シタル片、教師列ノ右端ノ二

人ヲ取り、三四歩前ニ進マシメ、適宜ノ地ニ留

メテ、正シク併列セシメ、而メ左ノ令ヲ下ス、

但此二人ハ前諸法ニ從ヒ、左臂ヲ屈ゲ、拳ヲ

腰上ニ當テ、第一位ノ生徒ハ、頭ヲ正面ニ向

ケ、第二位ノ生徒ハ、頭ヲ右ニ回ラシテ、第一

位ノ生徒ニ準ヘ、而シテ教師其整頓ノ位置

ヲ定メ終レバ、第二位ノ生徒ハ、自ラ頭ヲ正

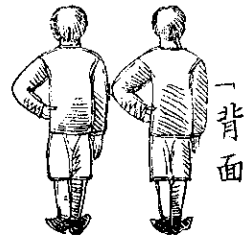
面ニ復スベシ、左端ノ二人ヲ取りテ、前法ヲ

施シ、各生徒ヲレテ、之ニ準ハシメントスル

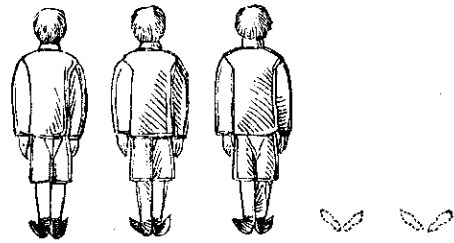
片ハ生徒頭ヲ左ニ回ラスノ差アルノミ、

一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ヘ 準<sup>すま</sup>ヘ 直<sup>ただ</sup>レ

教師右ヘ準ヘノ令ヲ下ス片ハ生徒直ニ前ニ進ミ、右二人ヨリ五寸許後方ニ止マリ、而メ頭



第五圖



ヲ右ヘ回ラシ、左拳ヲ腰ノ上ニ當テ、摺リ足ニテ前ニ進ミ、右ノ隣生徒ト肩ヲ均シクシ、其右ノ臂ヲ右隣生ノ左肘ニ緩ク觸レ、左ノ肘ヲ左隣生ノ右臂ニ僅力接

スル如ク、徐カニ整頓スベシ、而メ教師其過半整頓スルヲ見テ、直レノ令ヲ下ス、此令ニテ生徒ハ直ニ左臂ヲ下シ、頭ヲ正面ニ復スベシ、但此法ニ由テ、後方ニ整頓セシムルアリ、此場合ニハ、生徒右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ノ二人ヨリ、少シク後方ニ退キ、而メ更ニ摺リ足ニテ前ニ進ミ、二人ノ生徒ニ準フベシ、

(注意) 次ノ第二法ニ由リ、生徒ヲ一人ヅ、呼

ビ出シ、二人ニ準ハシムルモ、妨ゲナシトス、

第二 此法ハ第一ヨリ一層精密ニ整頓セシ

ムルニアリ、乃チ教師左ノ令ヲ下ス、  
一 右左二人三步前へ 進メ

直レ

進メノ令ニテ、列ノ右左端ニアル二人、直ニ三  
歩前ニ進ミ、將ニ其整頓線ニ著カントスル片、  
左拳ヲ腰ニ當テ、前第一ノ如ク整頓ス、但其間  
歩毎ニ教師一、二、三ト唱フ、而シテ全ク整頓シタ  
ル後、教師各生徒ノ番號ヲ呼ビ、一人ヅ、進マ  
シメテ、二人ニ準ハシムベシ、

但シ教師ハ豫メ、生徒ニ、番號ヲ呼ブ片ハ、其

呼バレタル者ハ直ニ前ニ進ミテ、嚮ニ二人  
ヲ以テ作りタル線ニ、移リ準フベキヲ、示シ  
置クベシ、

各生徒番號ヲ呼レタル片ハ、直ニ三步前ニ進  
ミ、最後ノ一步ハ、少シク歩ヲ縮メテ、整頓線ヨ  
リ五寸許、後方ニ止マリ、頭ヲ少シク右左へ回  
ラシテ、眼ヲ整頓線ニ列スル生徒ニ注ギ、拳ヲ  
腰上ニ當テ、摺足ニテ前ニ進ミ、右左ノ生徒ニ  
準フベシ、但シ教師ハ生徒前進ノ際、歩毎ニ一  
二、三ト唱フ、

教師生徒ノ整頓シ終ルヲ見レバ、直レノ令ヲ下ス、此令ニテ生徒ハ、頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ、左手ヲ側方ニ下ゲテ掌ヲ開ク、各生徒既ニ一人ヅ、精密ニ整頓スルヲ二習熟セバ、前ノ如ク二人三步前進セシメ置キ、教師左ノ令ヲ下シテ、全列ヲ同時ニ整頓セシム、  
一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ヘ 準<sup>ただ</sup>ヘ 直<sup>ただ</sup>レ  
準ヘノ令ニテ、最初整頓ノ基礎トシテ置レタル、二人生ヲ除クノ外、全列一齊ニ三步前進ス、但シ最後ノ一步ハ、前ニ一人ヅ、整頓セシ

如ク、少シク後方ニ止マリ、拳ヲ上ゲ、頭ヲ回ラシ、摺足ニテ整頓ス、而シテ生徒過半整頓スルヲ見テ、直レノ令ヲ下スベシ、此令ニテ生徒皆活潑ニ手ヲ下ゲ、掌ヲ開キ頭ヲ正面ニ復ス、次ニ教師ハ、整準トナシタル、二人生ニ併列シテ、整頓ノ良否ヲ檢シ、若シ不正ノモノアレバ、何番前ヘ、何番後ヘト呼フベシ、其呼レタル生徒ハ、拳ヲ上グルヲナク、頭ヲ少シク整頓翼ノ方ニ回シテ、静カニ列線中ニ移リ、而シテ後自ラ頭ヲ正面ニ復ス、



右ノ要領ニ從ヒ、生徒ヲ後方ニ整頓セシムル  
コトアリ、此時ハ左ノ令ヲ下ス、

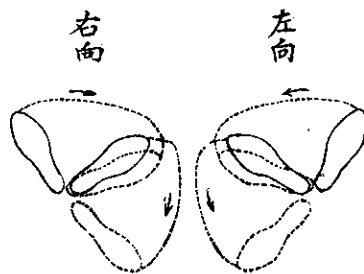
一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>二人<sup>ふたり</sup>四步<sup>よっほ</sup>後<sup>あと</sup>と一進<sup>すす</sup>メ

進メノ令ニテ、右若クハ左ノ二人、四步後方へ  
退步シ、前法ノ如クス、而メ其間教師步毎ニ一、  
二、三、四ト唱へ、後チ左ノ令ヲ下ス、

一 後<sup>うしろ</sup>ろ右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>へ 準<sup>すなは</sup>へ

此令ニテ、生徒ハ同時ニ退步シ、二人ノ作リタ  
ル整頓線ヨリ、少シク後方ニ退キ、而メ摺リ足  
ニテ前ニ進ミ整頓ス、總テ前法ニ同ジ、

第六圖



二列編成ノ後ハ、生徒ヲ二列ニ布置シ、右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ノ  
二伍ヲ取り、整頓ノ基礎ヲ定メ、此法ヲ以テ整  
頓ヲ行ハシムベシ、

第十二節 轉向法

生徒ヲシテ、右或ハ左ニ向ヲ轉セシムル爲メ、教

師左ノ令ヲ下ス、  
一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>向<sup>むか</sup>け 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ニ  
假令バ、教師右向ケ右ノ令  
ヲ下ス片ハ、各生徒左ノ足  
尖ヲ少シク舉ゲ、右ノ足ヲ

緩カニ踏ミ、體ノ重ミヲ左ノ踵ニ托シ、圓ノ四分ノ一右ニ向ヲ替ヘ、而ノ右ノ踵ヲ左ノ踵ニ引キ付ケ、兩足ノ尖ヲ開ク、  
左向ケ左ノ令ノ片モ、亦夕前法ト同ジク、左踵ニテ左向キヲナス、

第十三節 左右半轉向法

生徒ヲシテ、體ヲ半バ右或ハ左ヘ、向ヲ轉ズルヲ教練スル爲メ、教師左ノ令ヲ下ス、  
一 半右<sup>なみぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>向<sup>む</sup>け 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>  
教師半バ右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>向<sup>む</sup>け 右ノ令ヲ下ス片ハ、生徒前

法ノ二分ノ一、即チ圓ノ八分ノ一程、右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>ニ向ヲ轉ズベシ、其他ノ方法前ニ同ジ、

第十四節 轉回法

此法ハ、生徒ノ向ヲ、全ク背面ニ轉ゼシムル法ニシテ、教師左ノ令ヲ下ス、

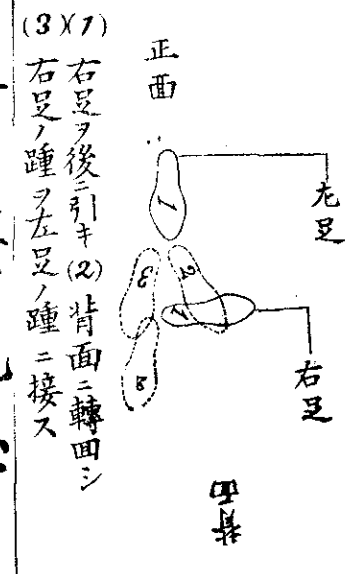
一 廻<sup>まわ</sup>れ 右<sup>みぎ</sup>

右ノ法ヲ詳明スル爲メ、之ヲ三動ニ分チテ説クベシ、而ノ一動毎ニ教師一、二、三ト唱ス、  
(2) 教師廻レ右<sup>みぎ</sup> (一)ノ令ヲ下ス片ハ、生徒速力ニ左踵ニテ、半右向キヲナスト同時ニ、右ノ足

ヲ後方ニ引キ、左ノ踵ヨリ凡ソ三寸許ヲ距テ  
テ、其中央ヲ左踵ニ對シ、其形ヲ矩ノ如クナス  
ベシ、但頭ハ猶ホ正面ニ向ク

(2) 教師(二)ノ令ヲ下ストキハ、兩足ノ尖ヲ少

第七圖



シク上ゲ、體ノ重ミヲ兩足  
ノ踵ニ托シ、向ヲ全ク後方  
ニ轉ズルナリ、其轉回スル  
ハ最モ速カナルベシ、而シ  
テ眼ハ終始、正面十二歩ノ  
所ヲ注ギ視テ、常ニ變ゼザルヲ要ス、

(3) 教師(三)ノ令ヲ下ス片ハ、速ニ右ノ足ヲ引  
キ、其踵ヲ左ノ踵ニ接シ、兩足尖ヲ開クベシ、  
生徒此法ヲ解得スル片ハ、廻レ右ニテ、每動ノ  
呼稱ヲ止メ、生徒各自ニ每動ノ呼稱ヲ默稱シ  
テ、直ニ轉回セシムルヲ法トス、

第二章 步調ノ要領

第一節 早足法

此早足法ハ、通常ノ步調ニシテ、其速度ハ凡ソ一  
分時間ニ百二十歩トシ、兩踵ノ間ハ一尺五六寸  
乃至二尺トス、但年齡ノ少長ニ由リテ、步ノ長短

及ビ速度ヲ定ムベシ、  
教師ハ初メニ、歩ノ長サ及ビ速度ヲ示ス爲メ、生  
徒ノ前十二三步ノ所ニ立ち、數回自ラ徐カニ歩  
ミテ、其摸範ヲ示シ、然ル後、生徒ヲシテ習練セシ  
ムベシ、乃チ教師左ノ令ヲ下ス、

一 前へ進メ

教師前へノ令ヲ下ス片ハ、生徒體ノ重ミヲ右  
ノ足ニ托シ、左ノ足ヲ緩カニナシ置キ、進メ一  
ノ令ニテ、左ノ足ヲ教師ノ示シタル長サニ踏  
ミ出シ、體ノ重ミヲ全ク之ニ托シ、右足ノ踵ヲ

上ゲ置ク、

次ニ教師二ノ令ヲ下ス、此時生徒右ノ足ヲ前  
ノ如ク示サレタル長サニ踏ミ出シ、以下一、二、  
一、二ノ令ニテ、歩法ヲ亂サズ行進ス、  
右ノ行歩ヲ爲ス片ハ、左右ノ肩ヲ動カサズ、勉  
メテ後方ニ引キ、胸ヲ張り頭ヲ正直ニナシテ、  
眼ハ前面十二歩ノ所ヲ視ルベシ、而シテ兩手ハ  
自然ノ動搖ニ任ズ、

〔注意〕 生徒多クハ、體ヲ前ニ屈シ、足下ヲ視ル  
ノ弊アリ、故ニ始メハ生徒ヲシテ、左右ノ手ヲ

後方ニ廻シ、右手ヲ以テ左肘ノ上部ヲ握リ、左ノ前臂ヲ以テ、右ノ前臂ヲ抱ヘシメテ、行步セシムル片ハ、前ニ屈スルノ弊ヲ矯ムルコトヲ得ベシ、

進行中ハ、生徒適宜ニ、前方一ノ著眼標ヲ定ムルヲ肝要トス、又一、二ノ令ニ換ルニ、左リ右ノ令ヲ以テスルモ妨ゲナシト雖、左足ノ地ニ著ク片、一若クバ左ト唱ヘ、右足ノ地ニ著ク片、二若クバ右ト唱フルモノトス、但歩々節度ヲ用ルヲナク、唯折ニ觸レテ發スベシ、

### 第二節 停止法

行進中、其行進ヲ停止セシメントスル片ハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 分隊 ぶんたい 止ル とまる

止ルノ令ニテ、生徒行進ヲ止メ、後口ノ足ヲ前ノ足ノ傍ニ、引き附クベシ、

### 第三節 後口ニ退歩ノ法

生徒ノ行進ヲ停止スル後、後方ニ退カシメントスルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 後とへ あとへ 進メ すす

進メ(一)ノ令ニテ、生徒ハ前法ノ如ク、左ノ足ヲ後方一尺許ノ處ニ引キ、(二)ノ令ニテ、右ノ足ヲ又同ジ長サニ引キ、以下一、二、一、二ノ令ニテ、後方ニ退步シ、分隊止ルノ令ニテ、速ニ行進ヲ止メ、前ナル足ヲ後ナル足ノ傍ニ、引キ附クルモノトス、

(注意) 歩法ハ主トシテ、歩ノ長短ト、速度トヲ均一ニスルヲ、教練スル爲メニシテ、強テ整頓スルコトヲ求ムルニアラズ、蓋シ歩法ニ習練スルトキハ、自ラ整頓シ得ベキモノナリ、

#### 第四節 駢足法

駢足ノ片ハ、前足ノ踵ト後足ノ踵トノ間ヲ、凡ソ二尺二三寸トシ、其速サハ一分時ニ、凡ソ百八十歩トス、但年ノ少長ニヨリ、適宜之ヲ伸縮スベシ、此法ヲ教練スル爲メ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 前<sup>まへ</sup>へ 駢<sup>ひ</sup>足<sup>あし</sup> 進<sup>すす</sup>メ

前へノ令ニテ、生徒ハ體ノ重ミヲ右ノ足ニ托シ、駢足ノ令ニテ、左右ノ兩掌ヲ握リ、拇指ヲ中指ノ上ニ置キ、左右ノ肘ヲ後方ニ引キ、下臂ノ中間ヲ平ニ腰ノ高サニ置キ、爪ヲ内ニ向クベ

進メノ令ニテ、體ヲ少シク前ニ傾ケ、左ノ足ヲ前ニ出シ、其足尖ヨリ下シテ地ヲ踏ミ、右足モ亦タ同距離ニ踏ミ出シ、一、二、一、二、或ハ左リ右ノ令ニテ、速ニ行進スルモノトス、但進行中ハ、自然ノ調子ニ由テ、臂ヲ前後ニ振り揺カスヲ可トス、

教師ハ生徒ニ駢足ヲナサシメ、適宜ノ處ニテ、停止法ニ從ヒ、分隊止ルノ令ヲ下シ、進行ヲ止ムベシ、然ル片ハ、生徒速ニ兩手ヲ垂レテ掌ヲ

開ク、

(注意)

駢足ノ片ハ、勉メテ口ヲ閉ヂ、鼻ニテ呼吸セシムルヲ要ス、而メ行進中ノ令ハ、初メ一、二ト唱ヘ、三、四ヲ默唱シ、更ニ一、二ト唱フ、又左リ右ヲ以テスル片ハ、次ノ左リ右ヲ默唱シ、更ニ左リ右ト唱フヲ良トス、

### 第五節 足踏法

早足若クバ駢足行進中ニ於テ、足踏ヲ行ハシメントスル片ハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 足踏進メ

進メノ令ハ、生徒ノ足將ニ地ニ著ントスル片  
唱フベシ、生徒ハ此令ニテ、前進ヲ止メ、其場ニ  
於テ足ヲ少シク前ニ出シ、兩足交々同地上ヲ  
踏ミ、若シ列ヨリ前後スル片ハ、生徒自ラ足踏  
ヲナシツ、右ヘ準ヘ列ヲ整フベシ、但シ駢足  
行進中、足踏ノ令下ル片ハ、直ニ兩臂ヲ側方ニ  
垂レ、掌ヲ開クヲ法トス、  
足踏ヲナサシメ、而メ之ヲ停止セシメントス  
ル片ハ、停止法ニ從ヒ、分隊止ルノ令ヲ下ス、然  
ル片ハ生徒直ニ足踏ヲ止ム、

足踏ヨリ再ビ行進セシメントスル片ハ、教師  
左ノ令ヲ下ス、

一 前ヘ 進メ

此令ニテ、生徒ハ左ノ足ヨリ、行進ヲ始ムベシ、  
但進メノ令ヲ下スニハ、生徒ノ左足將ニ地ニ  
著ントスル片ニ發スベシ、

第六節 踏替法

生徒行進中ニ於テ、步調ヲ失スル片ハ、自ラ足ヲ  
踏ミ替ヘ、步調ヲ正ス爲メノ法ニシテ、之ヲ教練  
スルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、



一 踏替へ進メ

進メノ令ニテ、生徒ハ速ニ後ノ足ヲ、前ノ足ノ踵ニ引付ケ、前ノ足ヲ再ビ踏出スナリ、例ヘバ、左足ノ前ニ出デタルトキ、踏替へ進メノ令下ル片ハ、生徒直ニ後ノ足、即チ右足ヲ左

第八圖



足ノ踵ニ付ケルト同時ニ、再ビ左足ヲ前ニ踏出スナリ、故ニ前ニ踏出シタル足ノ、將ニ地ニ着ントスルトキ、進メノ令ヲ下スモノト

ス、

第三章 行進間ノ要領

第一節 正面行進法

生徒前諸節ノ運動ニ習練シ、稍整頓シ得ル片ハ、其中最モ能ク練熟シタル生徒一名ヲ擇ビ、嚮導トナシテ、行進法ヲ教練スベシ、其令左ノ如シ、

一 前へ嚮導右左進メ

進メノ令ニテ、生徒ハ左足ヨリ踏出シ、嚮導ハ正直ニ前進シ、他ハ皆嚮導ニ準フ、例ヘバ教師前へ嚮導右ノ令ヲ下ス片ハ、嚮導

ハ列ノ右方第一位ノ生徒ノ上ニ列シ、前面適  
宜ニ目標ヲ定メ、進メノ令ニテ、真直ニ前進シ、  
他ノ生徒ハ嚮導ト共ニ前ニ進ミ、常ニ嚮導ニ  
注意シ、列ヨリ前後スルヲ勿ルベシ、而シテ頭ハ  
正直ニ、眼ハ前面ヲ視ルコト、整頓法ニ同ジ、以  
下之ニ準ズ、

〔注意〕 教師ハ前令ヲ下ス前ニ、嚮導ニ前面到  
着スル處ノ目標ヲ指示シ、嚮導ハ其目標ニ對  
シテ前進シ、教師ノ指示シタル目標ニ違フヲ  
勿ルベシ、

各生徒ハ、常ニ嚮導ノ方ナル隣生ト、自己トノ  
間隔ヲ保存スルヲニ注意スベシ、若シ進ミ過  
グルカ、或ハ列ヨリ後クル片ハ、徐ニ列線ニ復  
スベシ、

嚮導ノ方ヨリ押シ來ル片ハ、之ニ順從シテ他  
ノ一方ニ寄り、若シ他ノ方ヨリ押シ來ル片ハ、  
之ニ抗スベシ、

最初此演習ヲナスニハ、教師生徒ニ諭シテ、一  
運動間、勉メテ同一ノ歩長ヲ以テ行進シ、他ノ  
生徒ノ歩長ニ關係スベカラズ、縱令列ヨリ前

後スルヲアルモ、決シテ歩長ヲ伸縮セザルヲ要ス、此ノ如クスルヲ數回ニ及ブ片ハ、生徒其歩長ニ慣レ、行進中屢歩長ヲ伸縮シテ、列線ニ波狀ヲ生ズルノ患ヲ避クルヲ得ベシ、

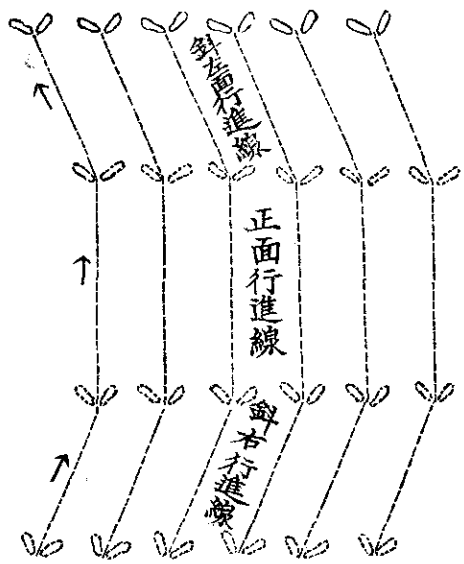
### 第二節 斜行進法

生徒正面行進法ニ習練スル片ハ、更ニ此法ヲ教練ス、即チ教師左ノ令ヲ下ス、

一 斜め<sup>みぎみぎ</sup>右<sup>みぎみぎ</sup>へ進<sup>ま</sup>メ

此法ハ、半轉向法ト同ジク、圓ノ八分ノ一程、右或ハ左へ向ヲ換ヘルナリ、

第九圖



此法ヲ行フニハ、初メ靜止間ニ於テ教練シ、稍習熟スルニ及ンデ、正面行進ヲ爲サシメ、而メ後斜メニ右へ進メントスル片ハ、斜め<sup>みぎみぎ</sup>右<sup>みぎみぎ</sup>へト唱ヘテ、右ノ足將ニ地ニ着ントスル片、進メノ令ヲ下スベシ、然ル片ハ生徒直ニ、半バ右向ヲナシテ行進ス、左へ斜行セシムルニハ、左足ノ將ニ地ニ着ン

トスル片、令ヲ下シ、他ハ前法ニ同ジ、  
斜行進中、足踏ヲナサシムルヲ得ベシ、即チ足  
踏ミ進メノ令ニテ、生徒正面ニ復シ、足踏ヲナ  
スナリ、

斜行進中、正面行進ニ復サシメントスル片ハ、  
左ノ令ヲ下ス、

一 前<sup>まへ</sup>へ 進<sup>すす</sup>メ

此進メノ令ハ、右斜行進ヲ爲ス場合ニ於テハ、  
右足ノ將ニ地ニ著ントスル片、之ヲ下シ、左斜  
行進ノ片ハ、左足ノ地ニ著ントスル片ニ下ス

ヲ法トス、右ノ令ニヨリ、生徒ハ直ニ正面ニ復  
シテ進行ス、

正面行進及ビ斜行進ニ、習練スル片ハ、兩行進中、  
或ハ停止シ、或ハ駐足、或ハ足踏三等ノ諸法ヲ習  
練セシムベシ、其令及ビ方法等ハ、皆前法ニ準ズ、  
駐足、或ハ早足ニテ、正面行進及ビ斜行進ヲナス  
トキ、其儘後口ニ向キヲ替ヘテ、進行セシムルヲ  
得ベシ、其令左ノ如シ、

一 廻<sup>まわ</sup>れ 右<sup>みぎ</sup>前<sup>まへ</sup>へ 進<sup>すす</sup>メ

嚮<sup>むか</sup>導<sup>どう</sup> 左<sup>ひだり</sup> 右<sup>みぎ</sup>

嚮導右左ノ令ハ、斜行進ノ片ハ、之ヲ省ク、  
此進メノ令ハ、生徒ノ右足將ニ地ニ著ントス  
ル片、下スベシ、然ル片ハ、生徒左足ヲ地ニ踏付  
クルト同時ニ、左右ノ足尖ニテ、後方ニ振り向  
キ、直ニ左足ヨリ踏出スナリ、

但進メノ令下ル片ハ、生徒右足ヲ動カスベ  
カラズ、

駢足中此法ヲ行フニハ、右足ヲ上ゲシ片、進メ  
ノ令ヲ下スベシ、然ラザレバ進行ノ度速カナ  
ルヲ以テ、右ヘ廻ルノ機ヲ誤リ、大ニ錯亂ヲ生

ズベシ、

右ノ法ハ、轉回法ト同ジク、一、二、三ノ舉動ニテ、  
廻ルヲ良トス、

仮令バ、廻レ右前ヘト唱ヘ、右足ノ將ニ地ニ著  
ントスル片、進メノ令ヲ下シ、左足ノ將ニ地ニ  
著ントスル片、(一)ノ令ヲ下ス、此令ニテ生徒ハ  
直ニ兩足ノ踵ヲ上ゲ、體ノ重ミヲ足尖ニ托シ、  
(二)ノ令ニテ後方ニ振り向キ、(三)ニテ左足ヲ前  
ニ踏出スナリ、

正面行進中、全ク背面ニ轉廻セシメテ、行進ヲ

停止セントスル片ハ、左ノ令ヲ下ス、

一 廻まきれ右みぎへ 止とどル

生徒左足ヲ上げシ片此令ヲ下シ、左足ノ地ニ著クト同時ニ、兩足尖ニテ廻轉シ、左足ハ動力スコトナク、唯右足ヲ左足ノ傍ニ引付ク、凡ソ右ノ法ヲ敎練スルニ、最初ハ之ヲ四舉動ニ分ツヲ良トス、即チ止ル(一)ノ令ニテ、左足ヲ地ニ著ケ兩踵ヲ上げ、(二)ノ令ニテ背面ニ振り向キ、(三)ノ令ニテ右足ヲ左足ノ傍ニ引付ケ、(四)ノ令ニテ整頓スルナリ、

右ノ法終テ全列停止セル片、其儘後方ニ退步セシム、其令左ノ如シ、

一 後あととへ 嚮導けうどう右左 進すすメ

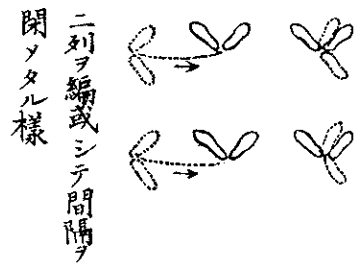
進メノ令ニテ、第二章第三節退步法ニ從ヒ、左足ヨリ後方ニ退久、而メ教師止ルノ令ヲ下セバ、直ニ止マリ、嚮導ノ方ニ整頓ス、

第三節 二列編成法

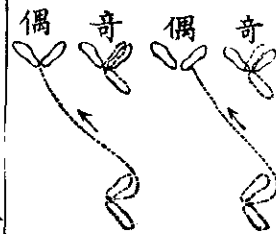
生徒一列ニ整頓シアル片、之ヲ二列ニ編成セントスルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 二列ふたれつふ右みぎへ 右 進すすメ

第十圖



二列ヨリ  
一列ニ  
復ス



臂ヲ屈ゲ拳ヲ腰ニ當テ頭ヲ右ニ向ケ嚮導ニ  
準フテ整頓ス他ノ各伍ハ同時ニ間隔ヲ閉メ

右ノ令ニテ嚮導ハ動ク  
ナク他ノ生徒ハ右向ヲ爲  
スト同時ニ偶數ノモノハ  
奇數ノ者ハ右傍ニ進三出  
テ之ト共ニ二人ノ一伍ヲ  
作ル

進メノ令ニテ首位ノ一伍  
ハ左向ヲ爲スト同時ニ左

テ同ジク右向ヲ爲シ第一伍ノ如ク右ニ整頓  
ス

二列ニ編成シタルトキハ必ず番號ヲ唱ヘシ  
ムベシ其法第一章第六節ニ同ジ但シ前列ノ  
モノハミ之ヲ唱フ而シテ後列生ハ重複シタル  
前列生ノ番號ニ同ジ但嚮導ハ番號ヲ唱フル  
ナシ

右ノ如ク二列ニ編成シタル後テ再ビ一列ニ復  
サシメントスル片ハ教師左ノ令ヲ下ス  
一列ハ右ヘ進メ

右へノ令ニテ、嚮導ハ直ニ右向ヲナシ、進メノ  
令ニテ、嚮導ハ前列ノ整頓線ヲ、右へ延長シタ  
ル方向ニ從ヒ、真直ニ行進ス、而シテ之ニ續テ第  
一伍モ、亦嚮導ト共ニ行進ヲ始ム、例ヘバ前列  
ノ第一番生ハ右ニ向キ、直ニ嚮導ニ隨行シ、後  
列ノ第一番生ハ、前列第一番生ノ舊位ニ出テ、  
右向ヲナシテ之ニ隨行シ、前列第二番生モ、亦  
タ右向ヲナシ、後列第一番生ニ隨行シ、後列第  
二番生ハ、前列二番生ノ舊位ニ出テ、右向ヲナ  
シテ之ニ隨行シ、其他ノ各伍、同法ヲ以テ順次

ニ行進ヲ始ム、但後列生ハ前列生ト殆ンド同  
時ニ運動ヲ始ムベシ、

最後ノ生徒、將ニ行進ヲ始メントスル時、教師  
左ノ令ヲ下ス、

一 分隊

止ル

左へ

正面

止ルノ令ニテ、生徒行進ヲ止メ、正面ノ令ニテ、  
悉ク左ヲ向キ、左ニ整頓ス、

此編成法ハ、列ノ右方ヨリ、施行スルヲ常トス、  
若シ列ノ左方ヨリ、施行セント欲スル片ハ、轉  
回ヲナサシメ、嚮導ヲ新ニ正面ヲ向キタル列



ノ右方第一列、即チ前列ニ移シ、前ト同法ヲ以テ施行シ、其編成終レバ、再ビ轉回ヲナサシメ、故トニ復ス、

列ヲ轉回セシメテ、嚮導ヲ右ニ移サントセバ、嚮導右ヘノ令ヲ下ス、此令ニテ、嚮導ハ列ノ前面ヲ、駐足ニテ過ギ、右方ニ移ル、而ノ故トノ正面ニ復セバ、再ビ嚮導ハ前ノ如ク、駐足ニテ右端ニ復スベシ、

### 第四節 方向變換法

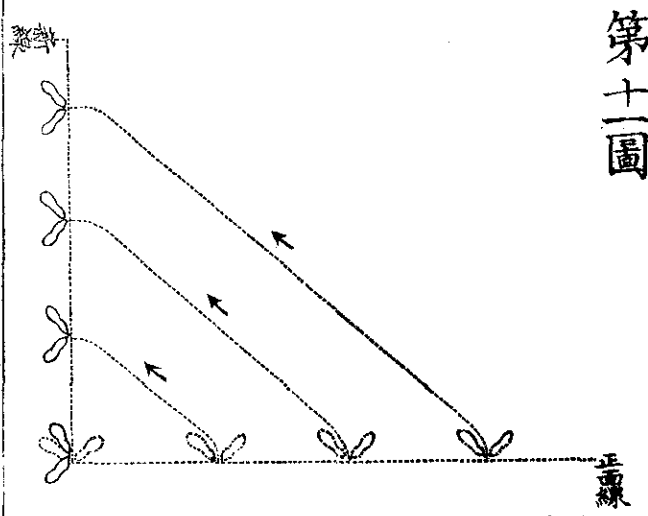
第一靜止間ノ方向變換 生徒正面ニ整列セル

片、其方向ヲ換ヘシメントスルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

#### 一 分隊左(右)ヘ進メ

例ヘバ教師右ヘ進メノ令ヲ下ス片ハ、右端ノ第一生徒ハ、止マリタル儘、右向ヲナシ、其他ノ生徒ハ、半右向ヲナシテ、步調ニ關セス、速ガニ列線ニ就キ、各自右ニ整頓ス、若シ嚮導軸方ニアル片ハ、軸乃チ第一生ノ右向ヲ爲スニ隨ヒ、退キテ其右傍ニ移リ、其軸生徒ニ併列シテ、整頓ノ基礎ヲ設ケ、若シ他端ニアル片ハ、生徒ト

第十圖

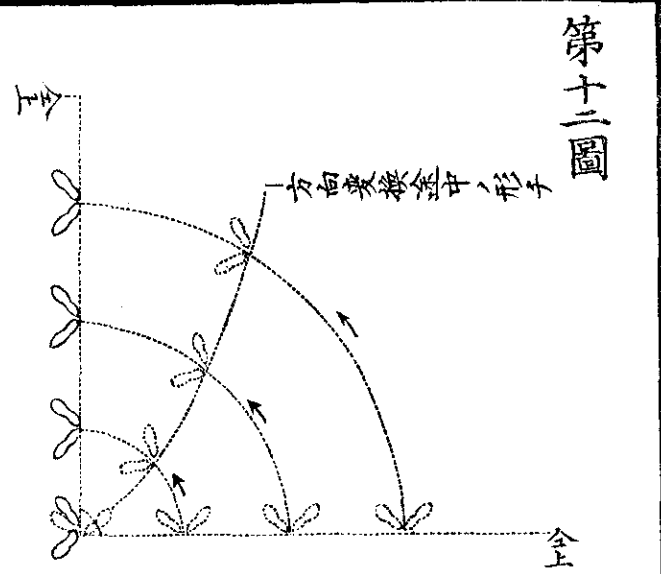


二置き、左ノ令ヲ下ス、  
 一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>小<sup>ちひ</sup>方<sup>かた</sup>向<sup>むき</sup>を變<sup>かへ</sup>へ  
 進<sup>すす</sup>メ

共ニ新線ニ就クベシ、左向  
 ノ片モ之ニ準ス教師ハ其  
 整頓ヲ監視シ、最後ノ生徒  
 方ニ列線ニ到レバ、直レノ  
 令ヲ下ス、

第二行進間ノ方向變換 生  
 徒行進中、其方向ヲ變ヘシメ  
 ントスル片ハ、嚮導ヲ左<sup>ひだり</sup>右<sup>みぎ</sup>翼

第十二圖



方向を變ヘノ令ハ、將ニ方  
 向ヲ變ヘシメントスル点  
 ヨリ、凡ソ四步前ニ下シ、全  
 列既ニ其点ニ達スル片ハ、  
 進メノ令ヲ下スベシ、進メ  
 ノ令ニテ、生徒ハ步ヲ止メ  
 ズ、速カニ右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>へ方向ヲ變  
 ヘルナリ、但、旋軸ノ一生ハ、  
 凡ソ六寸許ノ步長ニテ、行進翼ノ運動ニ從ヒ、  
 旋点外ニ小圈ヲ畫キテ前進ス、

新撰體操書 卷之二  
嚮導ハ此運動ノ初メニ當リ、其行進スベキ處ニ注目シ、常ニ凡ソ二尺許ノ步長ヲ取り、最初踏出ス時ヨリ、外方ノ肩ヲ少シク前ニ出シ、内方ノ肩ヲ後ニ退ケ、僅カニ體ヲ斜ニス、而シテ時々眼ヲ列中ニ注ギ、以テ列生ノ其間隔ヲ保チ得ル様ニ、行進ヲ整定ス、各生徒ハ肩ノ方向ヲ亂サズシテ、頭ヲ行進翼ノ方ニ向ケ、其方ヨリ間隔ヲ保チ、旋軸ニ近キモノハ、愈步長ヲ縮メテ、嚮導ノ行進ニ從フベシ、

注意列ノ中央ハ、少シク後方ニ、彎曲セシムルヲ良トス、而シテ各生皆臂ヲ軸方ノ生徒ニ接シテ、軸ヨリ離レザルベシ、且行進中ハ各生徒皆、步長異ナラザルベカラズ、然レ各各自互ニ豫メ步長ヲ一定シ、運動中時々之ヲ伸縮セザルヲ要ス、

生徒方ニ方向ヲ變ヘ終レバ、教師左ノ令ヲ下ス、  
一 前ヘ進メ  
前ヘノ令モ亦前ト同ジク、方向ヲ變ヘ終ラントスル、四步前ニ發シ、既ニ方向ヲ變ヘ終レバ、

進メノ令ヲ下ス、但シ進メノ令ニテ、嚮導ハ眞直ニ前進シ、旋軸及ビ其他ノ各生ハ、頭ヲ眞直ニナシテ、定歩ニ復ス、

上文ノ要領ニ從ヒ、駢足ヲ以テ之ヲ施行スルコトアルベシ、

### 第五節 側面行進法

生徒一列ニ併列セル片、側面行進ヲ爲サシメン  
トスルニハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>向<sup>む</sup>け 右<sup>みぎ</sup>左<sup>ひだり</sup>前<sup>まへ</sup>へ 進<sup>すす</sup>メ  
教師右ノ令ヲ下ス片ハ、各生徒右向ヲナスト

同時ニ、二列編成法ニ從ヒ、偶數ノモノハ、奇數ノモノ、右ニ出デ、二人ノ一伍ヲ作ル、

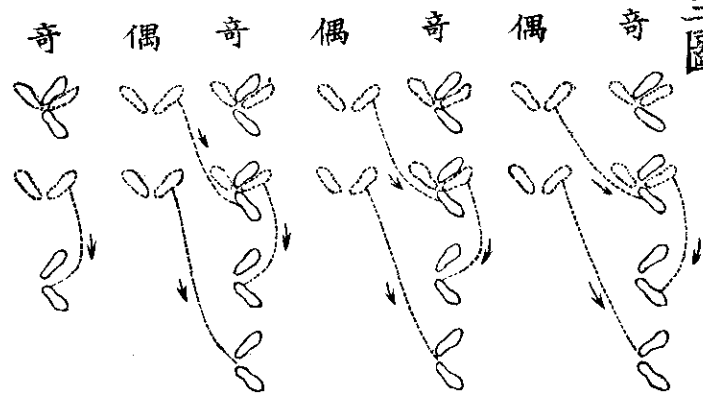
進メノ令ニテ、速カニ左足ヨリ行進シ、伍々互ニ距離ヲ亂サズ、正ク整頓スベシ、

左向<sup>ひだり</sup>け左ノ令下ル片ハ、左ヲ向クト同時ニ、奇數ノモノ、偶數ノモノ、右ニ出ヅ、餘ハ前ニ同ジ、

(注意) 教師ハ常ニ列ノ側面ニ在リテ、生徒ノ能ク伍々相重ナリテ、一定ノ距離ヲ取<sup>り</sup>進行スルヤ否ヲ注視シ、若シ行進ノ法ニ違フモノア

ル片ハ、直ニ矯正スベシ、

第十三圖



生徒ヲ二列ニ布置セル片、  
前令ヲ下セバ、四人ノ一伍  
ヲ編成ス、  
假令バ右向ケ右ノ令下ル  
片ハ、各生徒右向ヲ爲スト  
同時ニ、前列ノ奇數生徒ハ、  
其場ニ右向ヲナシ、後列ノ  
奇數生徒ハ、極メテ速カニ、  
右方ニ一步譲リテ右向ヲ

ナシ、前列ノ偶數生ハ、前列奇數生ノ右、即チ後  
列奇數生ノ舊位ニ出デ、後列ノ偶數生ハ、後列  
奇數生ノ右方ニ出デ、四人ノ一伍ヲ作ル、而シテ  
左ヘ正面ヲナス片ハ、各生徒左向ヲナスト同  
時ニ、偶數生ハ奇數生ノ左ニ出デ、舊位ニ復シ  
テ、二列ヲナス、

又左側面ニナサシムル片ハ、前ニ反對シテ、前  
列ノ偶數生ハ、其場ニ左向ヲナシ、後列ノ偶數  
生ハ、左方ニ一步ヲ譲リ、前列奇數生ハ、前列偶  
數生ノ左方ニ出デ、後列奇數生ハ、後列偶數生

ノ左方ニ出テ、四人ノ一伍ヲ作ル、

但列ノ左端奇數ナル片ハ、其一伍ハ共ニ左方ニ、一步ヲ讓ルノミ、

凡ソ一列ヲシテ、側面ニ向ケシムル片ハ、必ズ二人ノ一伍ヲ作り、二列ヲシテ側面ヲナサシムル片ハ、必ズ四人ノ一伍ヲ作ル、而ノ二列ヨリ正面ヲ向ク片ハ、必ズ一列ニ復シ、四人ノ一伍ヲナシタル片、正面ヲ向ケシムレバ、必ズ二列ニ復スルモノトス、

側面行進中、諸伍ヲ解ントスル片ハ、教師左ノ令

ヲ下ス、

一 伍々解レ 進メ

教師此令ヲ下ス片ハ、重ナリタル諸伍ハ、故ノ所ニ入ル、仮令バ右向キ行進中、此令下ル片ハ、偶數ノモノハ、各奇數生ノ後方ニ移リ、舊位ニ復スベシ、此際少シク歩ヲ縮メ、各生徒皆伍ヲ解キタル後、十分ニ距離ヲ閉メテ行進ス、而ノ後列生ハ、前列生ノ傍ニ、近寄ルベシ、又行進中伍ヲ重複セシメントスル片ハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 伍々併せ 進メ

右向キ行進中、此令下ル片ハ、偶數ノモノ、三、  
奇數生ノ右ニ進ミ出デ、奇數生ト一伍ヲナス、  
左向キ行進中ニ於テハ、奇數生ノ三、偶數生ノ  
右ニ進ミ出ヅ、

側面行進中、其列ヲ止メテ、正面ヲナサシメント  
スル片ハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 分隊 止ル 左(右)ヘ 正面

止ルノ令ニテ、生徒速カニ止マリ、假令ヒ隣生  
徒ト相離ル、モ、決シテ動キ、移ルベカラズ、

正面ノ令下ル片ハ、直ニ左(右)ヲ向クト同時ニ、  
伍ヲ解キテ舊位ニ復ス、其法前ニ同シ、而ノ生  
徒ハ速ニ嚮導ノ方ニ、整頓スベシ、

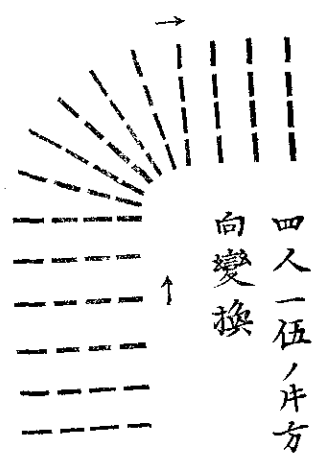
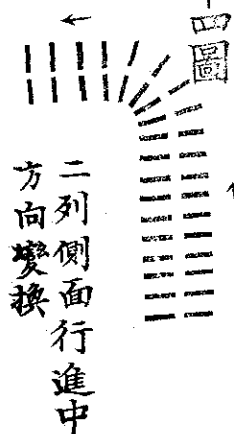
第六節 各伍方向變換

各伍ヲシテ、方向ヲ換ヘシメントスル片ハ、教師  
左ノ令ヲ下ス、

一 伍々左(右)ヘ 進メ

教師左ヘ進メノ令ヲ下ス片ハ、先頭ノ伍ハ、圈  
ノ小弧ヲ畫キツ、左ニ方向ヲ換ヘ、此伍ノ二  
名(四名)ハ、第一列ノ方ニ準ヒテ、其整頓ヲ保チ、

第十四圖



伍ノ旋軸生、歩ヲ縮メタル間ハ、後行伍ハ止マ

旋軸ニアル生徒ハ、最初ノ三四歩(五六歩)ヲ縮メ、行進翼ニアル生徒ハ、終始同一ノ歩長ト、速サトヲ以テ行進シ、伍々相併ブ片ハ、真直ニ前ニ進ムベシ、他ノ伍々モ亦、先行伍ノ方向ヲ換ヘシ處ニ至レバ、又此ノ如ク爲スナリ、但行進間、即先行

リテ足踏ヲナシ、先キニ突キ當ル等ノヲアルベカラズ、

行進間ニ於テ、右向或ハ左向ヲ爲サシメントスル片ハ、教師左ノ令ヲ下ス、

一 右(左)向<sup>みぎ(ひだり)</sup>け前<sup>まへ</sup>へ 進<sup>すす</sup>メ

例ヘバ教師生徒ニ、右(左)向<sup>みぎ(ひだり)</sup>けノ令ヲ下サントスルニハ、生徒ノ左(右)足將ニ地ニ著ントスル片、唱フルモノニシテ、而ノ進メノ令下ルヤ、生徒ハ活潑ニ體ヲ轉シテ、舉ゲタル足ヲ、新タナル方向ニ置キ、他ノ足ニテ踏出し、步調ヲ變ズ



ルヲナク、速カニ各伍重複シ、或ハ分解ヲナス  
ベシ、  
(注意) 側面行進間ニ於テ、右(左)向ヲナセシ片  
ハ、必ズ嚮導ノ所在ヲ令スベシ、

新撰體操書 隊列運動之部 終

新撰體操書

明治十九年六月七日 版權免許  
同年同月 出版

編纂人

茨城縣士族

水野 浩

東京神田區表神保町三番地

滋賀縣士族

小林 義則

東京日本橋區本町四丁目  
十六番地

出版人

文學社

東京日本橋區本町四丁目  
十六番地

發兌